

弥生三月十日

思ひでライブ

鈴木常吉 at 足利ココ・ファーム



日時：2012年3月10日 土曜日 夕方6:00より

場所：こころみ学園のワイン醸造場 ココ・ファーム・ワイナリー

栃木県足利市田島町611 会場は白いテントのココ・サローンです。

チケット：前売¥1,500 当日¥2,000 (中学生以下無料)

チケットには深夜の食堂で飲みたいワイン1杯またはジュース1杯が含まれます。

☆前売ご予約は ☎0284-42-1194 または shimano@cocowine.com まで
お名前・お電話番号・人数をお知らせください。ご予約番号をお伝えしますので
当日はその番号とお名前を受付でおっしゃってください。

☆オーダー(2杯目からのワインや、軽食)は別料金です。

☆ライブに先駆けて、当日は午後4時頃からワイン
醸造場地下のシネコ・バーで、「深夜食堂」をやり
ます。



☆お問い合わせは、こころみ学園のワイン醸造場 ココ・ファーム・ワイナリーへどうぞ

☎0284-42-1194 FAX0284-42-2166 <http://www.cocowine.com>

●鈴木常吉 すずき・つねきち プロフィール <http://www007.upp.so-net.ne.jp/tunekichi/>

80年代にセメントミキサーズ*にボーカル/ギターで参加。1989年、伝説的バンド・オーディション番組TBS「イカ天」出場、3週勝ち抜き、注目を集める。90年、セメントミキサーズ「笑う身体」でメジャーデビュー。プロデュースをプライベート・コンボのカーン・フィンチが担当。その音楽性が高い評価を得るもアルバム1枚を残して解散。翌91年、つれれこ社中にボーカル/アコーディオンで参加。97年、つれれこ社中、オフノートより「雲」をリリース。ビートたけし、高田渡、早川義夫、忌野清志郎らに絶賛される。2000年、つれれこ社中、活動休止。2006年、満を持して初ソロ作「ぜいご」をリリースする。現在、アコーディオンとギターでソロを中心に、渋さ知らズにゲスト参加したりしている。



*セメントミキサーズは、1980年代に栃木県足利市で結成された音楽バンド。

●奴のうわさ 深夜食堂主人談（代筆 安倍夜郎）

ツネさんかい。あっ知ってるよ。北千住の肉屋の倅（せがれ）だろ。深夜食堂（うち）に来ると「オレは肉屋の倅だからコロッケにゃ、チトうるさいぜ」なんて言いながらウーロンハイ飲んでるよ。

ガキの頃はオートバイ乗り回して交通鑑別所に何日か世話になったらしいな。高校出る時、地元の和菓子屋で見習い職人募集してて、研修でフランスに行けるってどっかから聞きつけて、母ちゃん同伴で面接に行ったら日頃の行状が行状だからあっさり断られて、それで仕方無く大学に進学したんだってサ。卒業後、どういう訳か絵本の会社に勤めてケンカかなんかで辞めて喫茶店を始める。その頃からバンド組んで歌ってたらしい。「イカ天」に出てセメントミキサーズでちょっとだけ売れた。その頃、あの高田渡さんと吉祥寺歩いてたら、渡さん差し置いてツネさんがサイン求められたって言ってたな。

独り者じゃないよ。ちゃんとおさんと奥さんに息子さんが三人、立派に育ってるよ。まあ、奥さんが偉いんだと思うけど。この前、店にツネさんがトロンボーン吹いてる青年を連れて来た。青年は音楽だけじゃ食えないから、週に六日、深夜、銭湯の掃除をするバイトをやってるって言った。そしたらツネさんが、「バカヤロー、おめえミュージシャンだろ！ミュージシャンが週六日もバイトすんじゃねえ。オレだって十年近く牛乳配達やってたけど、月水金しかやんなかったぜ」って説教してた。週六日と週三日。その微妙なところは理解できないけど、ツネさんが言うんだから大事なことなんだろう。青年が帰ったあと、ツネさんが言った。「あいつホント馬鹿でさあー」

ツネさんが人を褒めるとき、「ホント馬鹿」ってのが最高の褒め言葉なんだ。

その日、ツネさんが「今度作ったんだ」って一枚のCDを置いてった。オレは音楽のことはよくわからないけど、ツネさんの歌はいいと思ってる。ブッキラボーだけどちょっとあったかくってサ。それからツネさんのアコーディオンが好きなんだ。身もフタもないような歌だけど、なんかうす明るくって、前奏を聴いてるとウキウキしてくるからサ。

きのう久しぶりにツネさんが来たんで「『ぜいご』は、荒野を吹き荒ぶ風のような感じだったけど、今度のはちょっとマイルドになったね」って言ったら、「そうかもしれないな。この頃思うんだ。人の生死は孤独で不安なものだけど、それはそれで幸福なんじゃねえかって。そう思うとなんか楽になってサ」「ふーん・・・、ところでこのアルバムの『望郷』ってのはどうしてだい？」「北千住のこと思いながら作ったからサ」ツネさんが今住んでる所沢から北千住まで電車に乗りゃ一時間くらいで着いちゃうんだが・・・、「所沢から北千住思っって『望郷』かい」「うるせえなあ、望郷は望郷だ！」そう言うとなつねさん、コロッケをガブツとかじってウーロンハイを飲み干したんだ。



●ライナーノートより抜粋 三上寛

* 女々しさは微塵もないが、なんと悲しみに満ちあふれたアルバムだろうか。ピリィ・ホリディの『暗い日曜日』を聞いた時以来の衝撃を受けた。

* このアルバムはツネさんの『人生論』のようなものなのではないのか。誰も知らない場所で、ツネは、このようにして死者を弔っているのかと思うとこちらまで辛くなる。鈴木常吉がどのようにして人に接し、どのような根拠から言葉を紡ぎ出しているのかが分かるようだ。

* そして誰も居なくなる。『きっと誰も居なくなる』ツネはその中でもがき、自分の骨を、光るナイフで削ぎ落とすようにしてこの作品を並べたのだ。